

おもな学校感染症一覧表

第1種

エボラ出血熱・クリミア・コンゴ出血熱・痘そう・南米出血熱・ペスト・マールブルグ病・ラッサ熱・急性灰白髄炎・ジフテリア・重症急性呼吸器症候群(SARS コロナウイルスによるものに限る)・鳥インフルエンザ(H5N1に限る)

第2種 児童生徒がかかりやすく、学校で流行を広げる可能性が高い病気。

病名	出席停止期間	おもな症状
インフルエンザ	発症した後5日を経過し、かつ、解熱した後2日を経過するまで。	発熱・全身倦怠感・関節痛・筋肉痛・頭痛・咽頭痛・鼻汁・咳・くしゃみ・たん
百日咳	特有の咳が消失するまで。または、5日間の適正な抗菌薬療法が終了するまで。	最初は、かぜのような軽い咳・のどの発赤が見られる。発病後1週間くらいからコンコンという咳き込みを反復。
麻疹 (はしか)	発疹を伴う発熱が解熱した後3日を経過するまで。	発熱、咳、鼻水、目やに。ほほの内側に白い斑点コプリック斑ができる。発熱後4日目より皮膚に発疹。
流行性耳下腺炎 (おたふくかぜ)	耳下腺、顎下腺または舌下腺の腫脹が始まった後5日を経過し、かつ全身状態が良好となるまで。	37～38℃の発熱。耳下腺・顎下腺・舌下腺の腫れ・痛み・発熱・食欲不振。
風疹 (3日はしか)	発疹が消失するまで。	発熱と同時に発疹。耳の後ろ、首、わきの下などが腫れる。のどや結膜が充血。
水痘 (水ぼうそう)	すべての発疹が痂皮化するまで。	水ぼうが腹部・背中から全身に広がり、丘疹から水泡、かさぶたへと変化。
咽頭結膜熱 (プール熱)	主要症状が消退した後2日を経過するまで。	発熱・のどの痛み・結膜炎・首のリンパ節の腫れ・目やに。
結核	病状により医師において感染のおそれがないと認められるまで。	初期は自覚症状なし。X線での発見が多い。倦怠感・寝汗・微熱・体重減少・咳・たん・肩こり。
髄膜炎菌性髄膜炎	症状により医師等において感染のおそれがないと認められるまで。	敗血症を起こし、高熱や皮膚、粘膜における出血斑、関節炎等の症状が現れる。引き続いて髄膜炎に発展し、頭痛・吐き気、精神症状・発疹・項部硬直等の主症状が現われる。

第3種 学校教育活動を通じて、学校において流行を広げる可能性がある病気。

病名	出席停止期間	おもな症状
コレラ・細菌性赤痢・腸チフス・パラチフス	医師が感染のおそれがないと認めるまで	
流行性角結膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで	充血・まぶたの腫れ・目やに
急性出血性結膜炎	医師が感染のおそれがないと認めるまで	充血・まぶたの腫れ・流涙
腸管出血性大腸菌感染症	医師が感染のおそれがないと認めるまで	水様性下痢・血便・腹痛・発熱・嘔吐・嘔気
その他の感染症	医師が感染のおそれがないと認めるまで	ひどい充血。出血してくる。